２００８年４月８日

白崎　勝

日本建国の出発地点とその経路の発見

はじめに

古代、九州の勢力が東征し大和朝廷となったとする物語（いわゆる神武東征)、日本武尊が東征し大和朝廷の全国基盤を築いた物語は、古事記・日本書記に記された神話の物語とされてきました。

古事記・日本書記に記された、この神話を事実と証明することはほとんど不可能と考えられてきました。今回、偶然にも別な視点から東征勢力、東征の出発地点そして経路が見つかり、古事記・日本書紀の記述が事実であるという足跡を発見したので発表します。

発見の経緯

神奈川県中郡大磯町国府の里は、北の玄武に鷹取山があり、東と西は低い丘陵に囲まれ、南が海に面した小さな平野で、風水で言うところの「四神相応」の地と思われました。そこでこの里の風水について調査することにしました。八坂神社の配列、神体石の配列、不動川などを調査してきて、最後に取り組んだ鷹取山の調査が今回の発見につながりました。

１、高取山と鷹取山の関係の発見

神奈川県大磯町国府は、鎌倉時代には相模国の国府があったことによる地名です。いまも、国府本郷や国府新宿の地名が残ります。そこで、調査範囲を広げて相模の国の鷹取山を調べてみました。相模には同名の高取山を含めて、六山の「たかとりやま」が見つかりました。地図１です。

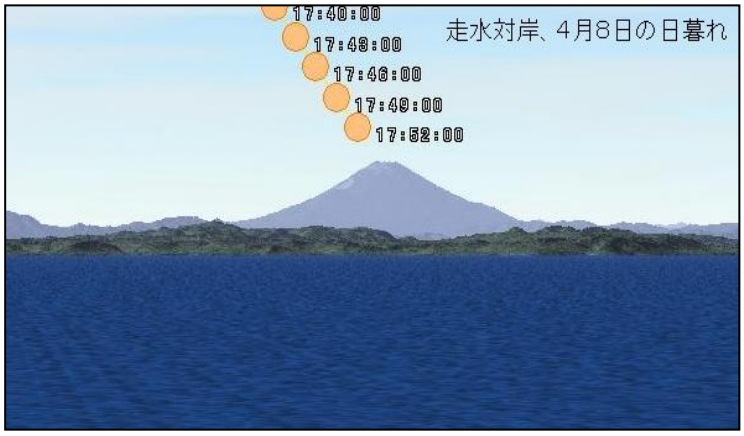
伊勢原・厚木方面に高取山が三山集中していて、それを囲むように鷹取山がありました。大磯町国府の隣、二宮町には吾妻山があり、日本武尊の妃となった弟橘姫(おとたちばなのひめ)

地図１　神奈川県の高取山と鷹取山

のゆかりの地と言われています。また「たか」の付く地名は日本武尊が東征した際に残した地名と言われていましたので、その経路ではないかと考えて、対に配置されているように見える高取山から鷹取山に直線を引きました。

そこに見えてきた内容です。足柄峠を越えて「あずまのくに」に入った日本武尊の東征軍はまだ海の広がる小田原平野には出ずに、丹沢大山の南麓伝いに伊勢原に出た後に、冬を越すため、いったんA1 からＡ２の方向に南下したと推理しました。国府の鷹取山を越えると暖かな国府の里にいたります。そこで従軍してきた弟橘姫と短い一冬を過ごしたのでしょう。翌年、春を向かえ相模川を渡るため厚木に迂回します。

この先の関東平野は広く、隊は二手に分かれたのでしょうか。分岐の隊はＣ１からＣ２の方向の甲州に向かった。一方、本隊はＢ１―Ｂ２を南下して三浦半島に向かいました。そして走水で太陽が富士に沈む４月８日の船出のその日、突然の春の嵐にみまわれて、弟橘姫は日本武尊の為に身を海に投じたのです。



Ｂ１の高取山やＢ2 の鷹取山などは、小さな山で故意に方向の記録を残すために選んだ山としか考えられません。Ｂ1 からＢ2 の線を延長すると日本武尊が船出した走水の海岸に向かっていています。さらには、走水・国府・富士山の直線ラインなど、その方向の正確さに驚かされます。そこで分かることは

１）　「高取山」から「鷹取山」の線分は単なる線分ではなく、進んだ方向を表すベクトルであった。

２）　「高取山が出発地点」で「鷹取山が進んだ方向」。「鷹取山の付近またはその先が目標地点」であることを示した古代の記録であった。

無数にある山の名前にその意思や記録を残すことは、古びて消えることの無い良い方法だったと思います。30ｋｍを越える距離を正確に測定し、命名する作業は強い意志と測量の技術があり、また山の近くの人たちに影響を及ぼし、山の名前を伝承として残す力があった人で無ければできることではありません。

２、全国の高取山と鷹取山

高取山と鷹取山がベクトルであるとして、全国に散らばる高取山と鷹取山の所在地を調べました。

表１　日本全国の高取山と鷹取山

No	名称	概略所在地	標高（m）	緯度	経度
1	高取山	岩手県宮古市西 13ｋｍ	565	N39° 38′ 29.20″	E141° 47′ 55.50″
2	高取山	茨城県日立大宮市西南西	356	N36° 30′ 09.20″	E140° 17′ 19.40″
3	高取山	山形県寒河江市	271	N38° 20′ 17.40″	E140° 14′ 45.70″
4	高取山	佐賀県吉野ヶ里西１４ｋｍ	441	N33° 19′ 19.80″	E130° 13′ 46.60″
5	高取山	福岡県矢部村	721	N33° 10′ 15.30″	E130° 48′ 20.10″
6	高取山	熊本県山鹿市鹿北町	328	N33° 03′ 56.40″	E130° 40′ 27.00″
7	高取山	福岡県大牟田市	139	N33° 01′ 28.90″	E130° 28′ 54.90″
8	高取山	熊本県天草市二浦町	341	N32° 15′ 22.50″	E130° 02′ 39.50″
9	高取山	愛媛県今治市大島	253	N34° 09′ 24.70″	E133° 04′ 47.60″
10	高取山	島根県浜田市旭町付近	485	N34° 49′ 28.30″	E132° 15′ 50.80″
11	高取山	兵庫県神戸市須磨区	328	N34° 40′ 23.70″	E135° 07′ 58.90″
12	高取山	奈良県明日香村南方６ｋｍ	584	N34° 25′ 33.70″	E135° 49′ 49.10″
13	高取山	神奈川県厚木市飯山付近	522	N35° 29′ 35.90″	E139° 17′ 25.40″
14	高取山	神奈川県伊勢原市三宮付近	556	N35° 24′ 01.27″	E139° 15′ 27.07″
15	高取山	神奈川県愛甲郡宮ヶ湖付近	680	N35° 31′ 41.53″	E139° 15′ 09.62″
16	高取山	岩手県八戸市東南 10ｋｍ	362	N40° 22′ 59.20″	E141° 39′ 06.00″

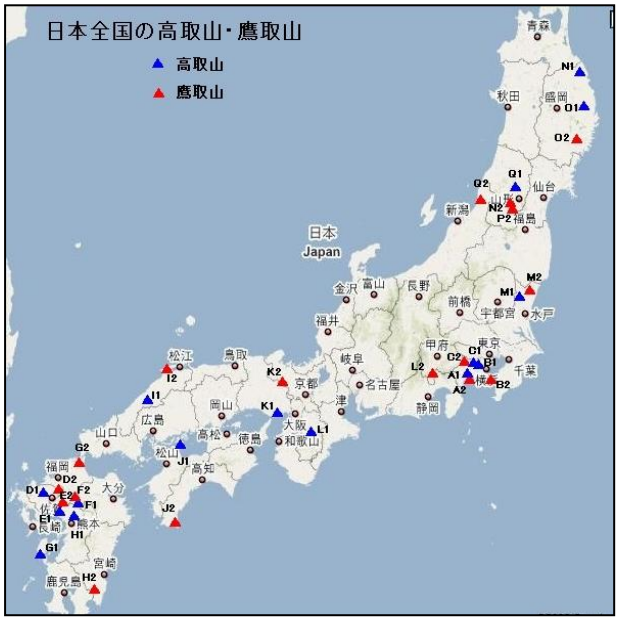
鷹取山

1	鷹取山	岩手県陸前高田市北北東	597	N39° 12′ 19.10″	E141° 32′ 58.00″
2	鷹取山	山梨県身延町付近	103	N35° 22′ 07.90″	E138° 24′ 28.10″
3	鷹取山	茨城県常陸太田市天下野町付近	424	N36° 38′ 43.40″	E140° 27′ 43.50″
4	鷹取山	神奈川県横須賀市湘南鷹取	91	N35° 18′ 12.30″	E139° 37′ 01.80″
5	鷹取山	神奈川県大磯町	219	N35° 19′ 33.50″	E139° 16′ 42.50″
6	鷹取山	山形県山形市南南西５ｋｍ	459	N38° 10′ 34.20″	E140° 16′ 22.80″
7	鷹取山	山形県山形市南西５ｋｍ	607	N38° 13′ 02.60″	E140° 14′ 34.00″
8	鷹取山	福岡県久留米市田主丸町	788	N33° 17′ 59.00″	E130° 43′ 30.70″
9	鷹取山	福岡県柳川市東 10ｋｍ	364	N33° 08′ 16.90″	E130° 33′ 16.50″
10	鷹取山	福岡県直方市東６ｋｍ	633	N33° 44′ 10.10″	E130° 47′ 27.10″
11	鷹取山	佐賀県吉野ヶ里北東６ｋｍ	404	N33° 22′ 12.10″	E130° 25′ 52.50″
12	鷹取山	宮崎県高千穂峰南東８ｋｍ	375	N31° 49′ 26.90″	E130° 58′ 05.10″
13	鷹取山	高知県土佐清水市付近	307	N32° 48′ 06.60″	E132° 56′ 26.30″

14	鷹取山	島根県出雲市稲佐浜北	213	N35° 26′ 04.30″	E132° 40′ 43.00″
15	鷹取山	兵庫県丹波市氷上町	566	N35° 12′ 40.00″	E135° 04′ 50.90″
16	鷹取山	神奈川県相模原市藤野町	475	N35° 37′ 51.90″	E139° 08′ 05.90″
17	鷹取山	新潟県村上市北３ｋｍ	419	N38° 15′ 29.60″	E139° 29′ 15.20″

＊　　緯度、経度は「世界測地系」で表しています。

高取山が１６山､鷹取山が１７山見つかりました。ほぼ同数であることから、対でベクトルを形成している可能性が高くなりました。1 山足りない高取山はどこかにあるはずです｡33 山を日本地図上にプロットしてみました。地図２です。



地図２　全国の高取山と鷹取山の位置

北は八戸から南は､宮崎県都城近くの高千穂まで分布しています。集中して分布している場所は、北は山形県３山です。神奈川県も 6 山で多く分布していました。

九州は１０山で最も多くの「たかとりやま」があります。最も注目されるのは、九州の分布です。古事記では日本武尊が熊襲（熊本県人吉周辺、鹿児島県霧島市周辺の説あり）征伐に西征していることから、この経路を表している可能性があります。いずれにしても予想したとおりに、たしかなベクトル配置で、ひとつだに適当に名づけた「たかとりやま」は無さそう見えます。

３、九州の高取山・鷹取山のベクトル解析

特に筑紫平野周辺に多くの高取山・鷹取山が集中しています。どの「高取山」から「鷹取山」にベクトル線を結ぶべきかあいまいなところもありますが、やはりほぼ対に配置されていますので、対と考えられる山と山を結びベクトル線を引きました。地図３に表します。

地図３　　九州の高取山・鷹取山

（ア）ベクトル D1→D2

小城市北部の高取山に始まるベクトル D1→D2 は、吉野ケ理遺跡の北を通りその方向は甘木市の丸山公園・大平山を越えて籾山に向かっています。

（イ）ベクトル E1→E2

大牟田市の高取山に始まるベクトル E1→E2 も、甘木市の東方を通り、籾山の南面でベクトルＤ１→D2 と交差します。ここを交点 X1 とします。

（ウ）ベクトルH1→Ｆ２

Ｈ１、Ｆ２は別なベクトルに振り当てたポイントです。しかし、山鹿市の高取山に始まるベクトルH1→Ｆ２ も甘木市東方を通り、籾山南面の交点Ｘ1 の近くに至ります。D1→D2 と交差する点を X2、E1→E2 と交差する点を X3 とします。

（エ）トライアングル１

遠く 50km に及ぶベクトル線がつくる X1、X2、X3 の三角形は、わずか数百ｍ範囲を示しており故意に形成した三角形のようにも見えます。トライアングルＴ１とします。

（オ）ベクトルＦ1→Ｆ２

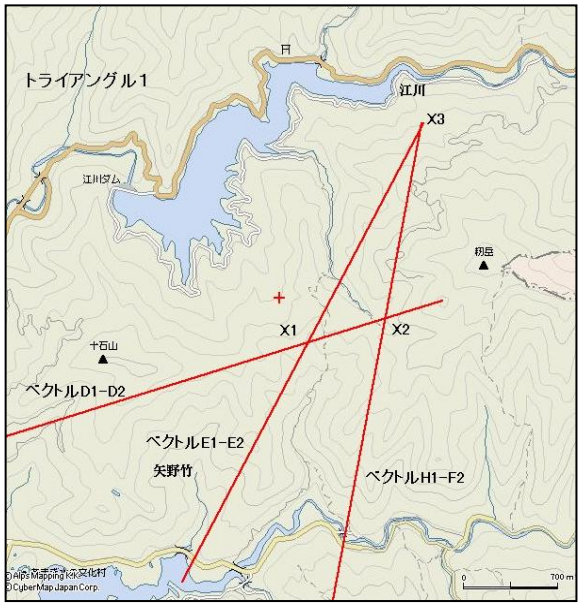
矢部村の高取山に始まるベクトルＦ１→Ｆ２は、本来の意思を示したベクトルと考えます。甘木市南部の筑後川付近で、ベクトル E1→E2 と交差します。この交点を X4 とします。更に延長しますと甘木市西部の甘木公園西を流れる小石原川付近でベクトル D1→D2 と交差します。この交点を X5 とします。

（カ）トライアングル２

Ｘ１－Ｘ４－Ｘ５が取り囲む三角形をトライアングルＴ２とします。

（キ）ベクトルＧ１→Ｇ２

天草南部の高取山に始まるベクトルは、北九州の直方市東方にある鷹取山に向かっていると考えました。ベクトルＧ１→Ｇ２です。このベクトルはトライアングルＴ



地図４　トライアングルＴ１

地図５　トライアングルＴ２

２の西方2.5ｋｍを通過しています。トライアングル２と交差しないような配慮がうかがえます。

（ク）ベクトルＨ１→Ｈ２

山鹿市西方の高取山に始まるベクトルＨ１→Ｈ２は遠く高千穂峰付近の鷹取山に達しています。

４、九州のベクトル・トライアングルの意味するところ

日本武尊の西征の経路ならば、熊襲方面へのベクトルがあるはずです。しかしベクトルは甘木市に集中した後に、東に向かっていることから神武東征の出発地点と経路を表していることはすぐに推察できます。

１）　筑紫平野周辺勢力の甘木市付近への集合

ベクトルＤ１→Ｄ２は、筑紫平野北部、北西部の吉野ヶ里や鹿島の勢力が東征隊に参加するために、甘木市付近のトライアングル T2 に向かったと読み取れます。ベクトルＥ１→Ｅ２は、八女、瀬高など筑紫平野南西部の勢力が東征隊に参加するために、トライアングルＴ２に向かったこと読み取れます。

ベクトルＦ１→Ｆ２は、甘木市南東部の小国や九重の勢力が東征隊に参加したことが読み取れます。トライアングルＴ２の一帯は標高 20ｍくらいの高台で、東に向かう交通の要衝であり、多くの軍隊が集合するに好都合な位置で、中心となる勢力があった場所と考えられます。

２）　東征の出発地点

集合地点のトライアングルＴ２はすなわち東征の出発地点と考えます。日本建国の出発地点となれば大変意味があります。東征隊はここから二手に分かれて、本体と思われる隊はベクトルＧ１→Ｇ２の方向に進みベクトルの先にある北九州市方向に向かったと考えられます。古事記でいうところの岡田の宮です。東征隊の隊長であった五瀬命が率いる本隊では無いでしょうか。

一方の隊は南下して、ベクトルＨ１→Ｈ２で示す高千穂峰のある都城に向かったと考えます。若御毛沼命（後の神武天皇）率いる別動隊と考えます。古事記では、高千穂峰で二人の命が相談して、日向の美々津から船出したことを中心に、東征が記されています。本隊の五瀬命は東征の途中で亡くなることから、若御毛沼命が率いる隊を中心に伝承された結果ではないかと推理します。

３）　トライアングルＴ１は何故あるのか

トライアングル Ｔ１はベクトルＨ１→Ｆ２と他のベクトルの点を共有してできたベクトルなので意味が無いかもしれません。しかし、このトライアングル一帯は籾山の西面あたり、甘木市の三奈木方面から見える位置で、あまりに絞られたトライアングルを形成しているので、隠された意思があるのでしょうか。

４）トライアングルＴ２は何を意味するのか

このトライアングルは、東征隊の集合・出発地点を表すのみでなく、高天原の領域を示しているかもしれません。そうだとすれば、東征軍は必ず天照大御神に戦勝祈願をしているはずですから、天照御大御神の墓所はこのトライアングルＴ２を大きく外れてはいないと考えます。さらに、天照御大御神が魏志倭人伝の卑弥呼であれば、卑弥呼の大塚があっても不思議ではないと思われます。

５　大和に到る経路

宮崎、宇佐など九州東岸部を制圧した、若御毛沼命（後の神武天皇）率いる東征軍は本隊の五瀬命と合流して瀬戸内海を東に向かったと思われます。古事記に記されたルートです。このルートには三の分岐で残されています。

地図６　中国・四国・中部の高取山と鷹取山

●　　ベクトルＩ１→Ｉ２

浜田市東部の高取山から出雲大社北４ｋｍにある鷹取山を結ぶベクトルです。日本海側を北上したのか、山口あるいは広島から山中を北上したのかは定かに、読み取れません。付近の伝承を調べることで見えてくると思われます。出雲地方にはワカミケヌの伝承も残りますが、何のための遠征だったのでしょう。出雲大社への戦勝祈願なのか、はたまた国譲りなのか。

●　　ベクトルＪ１→Ｊ２

今治市北部にあるしまなみ街道大島の高取山から、土佐清水市の足摺岬付近の鷹取山を結ぶベクトルです。四国の南部をも制圧する分岐の遠征があったことを示しています。東征は四国南部を行ったとする伝承が残っています。

●　　ベクトルＫ１→Ｋ２

神戸市須磨区にある高取山から、福知山市南部にある鷹取山に伸びるベクトルです。播磨から北上し福知山・綾部一帯を制圧した分岐の遠征と考えます。

これらは、古事記に記されていない内容で本ルートの分岐のようで、山陰側や四国全体も含めた東征軍の動きであることを示しているように思います。大和には明日香の南部高取町の高取山しかありません。大和に入るための戦いが古事記に多く記されていて、熊野から北上した記録となっていますが、そのベクトル表示は無いようです。失われたベクトルなのか、もともと無いものか、命名しなかったのかいずれでしょうか。

６　日本武尊の東日本の東征経路

東征はいったん、神武軍が大和に入ったところで若御毛沼命が天皇に即位して中断します。しかしこの高取山・鷹取山の意味するところは、東征は日本統合の一つの事業と捉えているようで、日本武尊の東征についても、同じ方式で経路のベクトル表示をしています。

●　　ベクトルＬ１→Ｌ２

大和南部の高取町の高取山から一気に富士山西部の身延の鷹取山に延びています。ベクトルＬ１→Ｌ２は明日香を出発した日本武尊は伊勢越えにて三重にでて、東海を富士に向かったことを示しています。

●　　ベクトルＭ１→Ｍ２

常陸大宮市西部の高取山から、日立大宮市北東部にある鷹取山にいたる 22ｋｍのベクトルです。ここは大きな穀倉地帯が広がる場所で、ここを制圧した後にそのベクトルの先にある日立市、いわき市に向かったと読むことができます。そして、ここから先北上するベクトルが見つからないことから、日立付近で船にのり三陸沖を北上して、八戸から南下したのではないでしょうか。現に日立付近には日本武尊が船から下りて戦勝祈願した伝承があります。

別図７　東北の高取山・鷹取山

●　　ベクトルＮ１→Ｎ２

今度は北の果て、八戸の南部の高取山が起点ですが、ベクトルの先の鷹取山が見つかりません。遠く山形の鷹取山に結ばれているのでしょうか。一気に南下したとも読み取れます。

●　　ベクトルＯ１→Ｏ２

宮古市西部の高取山が起点で、遠野市南部に位置する鷹取山に向かうベクトルです。八戸から南下した東征軍か、船で北上の途中に分岐した隊が宮古に上陸して遠野を経て陸前高田に向かったのでしょうか。高田は「たか型」地名です。

●　　ベクトルＰ１→Ｐ２

Ｐ２の鷹取山が山形上山温泉付近にあります。わずか５ｋｍの位置にもうひとつのＮ２に設定した鷹取山があります。したがってＰ１に相当する高取山が足りないので付近に見つからない高取山があるのではないかと予想します。

●　　ベクトルＱ１→Ｑ２

Ｎ２の北１０ｋｍの寒河江市付近に高取山があります。ここを起点とするベクトルＱ１→

Ｑ２は新潟県村上市の北に位置する鷹取山に向かっています。東征の最後のベクトルになります。大きな新潟平野を南下したことをうかがわせます。

８　なぜ高取山・鷹取山なのか

東征のベクトルを表すに、なぜ高取と鷹取を使ったかの疑問が出てきます。推測するに、高は高天原の高で、その東征軍が鷹のように鋭い爪を持ち、全国を駆け巡り国取して日本の統一を果たさんとする意思が含まれているのではと考えます。経路を単なる高取山の列でなく、鷹取に名前をかえて方向を示した古代人の知恵に驚かされます。

９　この発見の意味と期待

１）　東征の勢力、出発地点、経路が明らかになったことから、東征が日本建国と統合の大きな事業であったことが見えてきました。何時、誰が行ったかは、異論も多く古事記などの記録研究により今後明らかになると思います。この発見を機に、従来神話とされてきたことが史実と認められるきっかけになればよいと思います。

２）　日本建国の様子が史実となれば、日本人のアイデンティティは、より誇り高いものになると思います。

３）　出発地点が特定できたことから、邪馬台国論争に与える影響が大きいのではないかと思います。卑弥呼の墓が見つかることを期待します。

以上

参考とした文献

日本古代文明の謎　　井上赳夫著
最新「邪馬台国」論争　　安本美典著
卑弥呼と神武天皇　　富田徹郎著

利用した地図ツール

カシミール３Ｄ　　杉本智彦著
Ｇｏｏｇｌｅマップ
Ｇｏｏｇｌｅアース
キョリ側β　　Ｍａｐｉｏｎ
五万分の一地図　　国土地理院
エリアマップ　山と高原地図　　神奈川県庁山岳会
九州沖縄全図　　昭文社